

令和5年度 第2回長野市総合教育会議 議事録(要旨)

1 日 時 令和6年1月31日(水) 午後3時30分～午後4時50分

2 会 場 長野市役所第一庁舎7階 第一・二委員会室

3 次 第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

①不登校・いじめの緊急対策等について

②子どもの体験・学び応援モデル事業について

(4) 閉会

4 出席者

○荻原健司市長

○長野市教育委員会

丸山陽一教育長、近藤守教育長職務代理者、茅野理恵委員

○オブザーバー

西澤雅樹副市長

○職員

下平企画政策部長、藤澤教育次長、勝野教育次長、臼井保健福祉部長、
島田こども未来部長、鈴木文化スポーツ振興部長、中野秘書課長兼復興対策室
長、北島教育委員会事務局総務課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局
の職員

5 会議要旨

(1) 開会 進行：下平企画政策部長

(2) あいさつ

荻原市長

- ・令和5年度第2回総合教育会議にご出席をいただき、感謝申し上げます。
- ・本日は議題が2つあり、1つ目の議題は、「不登校・いじめの緊急対策等について」、皆さんから意見を頂戴したい。
- ・「SaSaLAND」には非常に大きな期待を寄せている。不登校の児童生徒の居場所をしっかりと確保していくことも行政の役割であり、責任だと思っている。

- ・2つ目の議題である「子どもの体験・学び応援モデル事業について」は、昨年11月から1月までの3か月間、実証事業として実施した。
- ・利用者の皆さんからは、いい反響をいただけていると思っている。単にモデル事業で終わらせず、新年度から本格的に子どもたちの体験や学び、子どもたちの未来を応援し続ける形でやっていきたい。
- ・限られた時間ではあるが、本日はよろしく願いしたい。

丸山教育長

- ・今年度第2回目となる総合教育会議を開催いただき、感謝申し上げます。
- ・今年4月に教育支援センター「SaSaLAND」が開設予定で、1月26日から2月3日までの期間で全10回（10コマ）の現地説明会を実施しているが、参加希望者が大変多く、児童・生徒が176人、保護者を含めると458人の申込みがあった。学校以外の居場所に対するニーズの高まりを感じるとともに、学校においても安心して過ごせる環境づくりを同時に進めていく必要があると考えている。
- ・本日の議題である「不登校・いじめの緊急対策等について」は、令和4年度全国の不登校児童生徒が約29万9千人、いじめの認知件数が約68万2千件と、どちらも過去最多となったことを踏まえ、令和5年10月に文部科学省では「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」を取りまとめて、地方公共団体において取り組まれないことについても示されたところである。
- ・本日は本市の現状や課題を皆さんと共有させていただき、子どもたちの学びの場の確保や不登校・いじめの早期発見、早期対応の強化について、皆様の意見を頂戴し、子どもたちへの支援の充実に努めてまいりたい。
- ・本日は鷲澤委員と山口委員は所用により欠席のため、よろしく願いしたい。

(3) 議事

①不登校・いじめの緊急対策等について

- ・勝野教育次長から資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4に基づき説明

【意見交換】

(市長) 資料1-2主な取組3 学校の風土の「見える化」について、学校の風土と欠席日数には関連を示すデータがあるということだが、これは長野市でもやっているのか。

(学校教育課指導主事) 資料1-1スライド8 しなのき児童生徒意識アンケートを年2回実施し、子どもたちの様子などの状況把握をしている。

(市長) このアンケート結果を学校の授業改善などに活用されているという理解で良
いか。

(学校教育課指導主事) 授業改善のほかに児童生徒の登校支援への活用やスクリー
ニング会議などにもこのデータを使って、会議を行っている。

(市長) 市長になる前は、全国各地の学校で講演をしてきた。小学校、中学校はもち
ろん高校なども含めて学校の風土を見てきて、校長室に入ると学校の風土が分か
る。校長先生の人物像が、学校全体の雰囲気に影響していると思う。校長先生や
先生の評価は誰が行っているのか。

(勝野教育次長) 全校長と教育長の面談を年2回行っている。そのほか、県教育委員
会が、長野市教育委員会も一緒に行くことが多いが、学校を訪問して、校長、教
頭や教職員はじめ子どもたちの様子を見て回っている。

(市長) 先生はもちろん校長先生や教頭先生も含めて皆さん頑張っているのはよく分
かるが、プレッシャーが硬直感に繋がり、学校全体の雰囲気を覆ってしまってい
るのではないか。

そこで、教育長との面談のみならず、学校に行って学校全体の雰囲気を感じ取
ることが大事だと思う。子どもたちの中には、いじめや不登校になる様々な原因
があると思うが、世の中には子どもの興味関心を引きつけるものが山ほどある。
どれだけ授業を改善できるのか、難しい課題だと思うが、授業改善のさらなる努
力をお願いしたい。

(委員) 資料1-1スライド4 平成27年、長野市の千人当たりの不登校児童生徒
の割合は、全国そして県より高かった。これはいけないということで、スクリー
ニング会議などに取り組みされた。

その後、さらに進められた結果、全国や県の割合より随分減ってきている。長
野市として、少しずつ人材を手当てしてきたことや学校の取組、SSW(スクー
ルソーシャルワーカー)の派遣、さらに学校訪問を進めてきたからだと思ってい
る。

私としては、資料1-3 心の小さなSOSを早期発見するには、学校におけ
る組織的対応を今後さらに強化して、進めていただきたい。これを続けていくに
は人材が必要なので、拡充していただければと思っている。

(市長) 資料1-3 必要に応じて本人や保護者を交えた支援会議とあるが、より一

層、子どもたちや保護者の皆さんに寄り添った対応をしていただけるとありがたい。

(勝野教育次長) 教育委員会では、より効果的な支援会議となるような案を次から次へと出し始めている。子どもに寄り添った対応となるよう努めていきたい。

(副市長) 資料1-1スライド4 不登校児童生徒の経年グラフの全国、県、市の状況において、長野市は発生率が低いが、令和2年から令和3年、令和4年と急増し、グラフがかなり跳ね上がっている。これは、コロナの影響が大きいと思うが、スライド4下部の赤囲みの中に考えられることとして、保護者の学校に対する意識の変化とは何か。

また、同じく赤囲みの中の4つ目に登校する意欲が湧きにくい状況にあったこととあるが、具体的な内容について補足をお願いしたい。

(勝野教育次長) 平成29年に義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律、略して「教育機会確保法」が施行された。「不登校は問題行動ではない」との基本理念がしっかりとこの法律でうたわれ、周知されたことで全国に認知され始めている。例えば、不安で医療機関に行くと、医師から「学校を休んでいいよ、行かなくていいよ」とのコメントが最近非常に多いそうである。このような影響もあって、学校に行くのが全てではないという意識を持つ親も増えてきた。

(副市長) 登校する意欲が湧きにくい状況にあったこととは、コロナのことか。

(勝野教育次長) 赤囲みの中の2つ目のことと繋がっていると思われるが、生活リズムの乱れから来るものや意欲面、それから周りの大人の意識が変わってきたなど、複合的な意味もあり、子どもが影響を受けているのではないかと推測される。

(副市長) 学校に無理やり行かせるより、学校に代わる学びの機会や居場所が必要との認識で良いか。

(勝野教育次長) 多様な居場所を学びの保障の観点で用意しておくことは、大事な視点だと思う。

(委員) 登校意欲というのは、学校が楽しい、行きたいと思わなければ低減していく。コロナ禍においては、人間関係の希薄さが広がったと実感している。資料1-2

主な取組の3 学校の風土の「見える化」とあるが、風土を「見える化」することで、様々なことに対して寛容な組織を如何に作っていけるかではないか。文部科学省が示しているのは、この回答結果を教員だけではなく、おそらく専門家も入れながら、柔軟で寛容な組織になるために何ができるかを考えていくことではないか。学級については、子どもが先生を含めて風土を評価し、学校に対しては、教員組織が自分たちの職場である学校を評価していくことが必要になってくるのではないかと思う。この風土の「見える化」を通して、いかに集団が心理的に安全性の高い組織であるかというところが大前提になってくる。心理的な安全性をいかに高めていけるかに力を注いでいきたい。

また、人間関係づくりにおいても、互いを重要視し、認め合う学級活動が可能になっていくためには、まず先生と子どもたち一人一人の人間関係が安定的で、そこに安全が保障されることが前提になってこなければ実現しないと思っている。

(市長) 「SaSaLAND」のことで伺うが、すごい期待感があると思う。親御さんが、「うちの子は不登校なのでフリースクールはどうか」と思っても、毎月いくらかの経済的負担が生じることを考えれば、「SaSaLAND」ができればありがたいと思う。「SaSaLAND」は、基本的にお金はかからないという認識で良いか。バス代もかからないのか。

(勝野教育次長) かからない。

(市長) これは、ありがたいと思う。そのような中で、やはり受入時間が午後3時までではちょっと短いという話もあり、そのとおりでと思う。仕事をしている親御さんからすれば、3時半頃に長野駅や川中島駅まで送ってもらっても、迎えに行けない。市内の教育支援センターは、全て午後3時までなのか、その理由を教えてください。

(勝野教育次長) そのとおりである。7か所の教育支援センターが、午後3時の時刻設定になっているので、合わせている。先日の説明会でも、午後3時以降何とかならないかといった意見もいただいた。午後3時以降をうまく繋げることができるような場所を検討しており、何とかしたいと思っている。

(市長) 繋げるというのは、「SaSaLAND」から別の場所に移すということか。

(勝野教育次長) そのとおりである。「SaSaLAND」などの車で送っていけるような体

制も検討しているところである。

(市長) 実際、始まってみないと実態は掴めないと思うが、例えば、こども財団による放課後子ども総合プランを利用することはできないか。3時以降でも居ることができる環境を作ってあげたい。

また、「みらいハッ!ケン」プロジェクトの体験活動を利用することはできないか。

(こども未来部長) 「みらいハッ!ケン」プロジェクトを活用してやることはできるかと思う。

ただし、どのようにやるのか、「SaSaLAND」を利用される子どもに合ったものをこども財団や事業者が提供できるか、できないかは考えていかなければいけないと思う。

(市長) 下校の考え方がベースにあるのか。

(教育長) これから検討していく必要があると思う。教育支援センターの運営は市の直営でやっているので、将来的にNPOあるいは財団等に任せることができれば時間を延ばすこともできるのではないか。ほかにも要望等あるので、それに対応するため1つ1つ丁寧に検討して、解決していかなければいけない。

(司会) 引き続き、検討をお願いしたい。

(委員) 資料1-1スライド5 不登校の児童生徒全ての学びの場の確保で、校内教育支援センターの設置校が増えれば良いなと思っている。長野市の不登校児童生徒の割合(比率)が少し減ってきたのは、スクリーニング会議ができるようになってきたことがかなり大きいので、充実させていただければと思う。

(勝野教育次長) スクリーニング会議の充実は本当に大きなポイントで、また校内教育支援センターの充実も今後しっかりやっていく必要は大いにある。

(委員) 「SaSaLAND」について、本来2日間で設定していた見学会が10日間になり、見学申込み児童・生徒数176人、保護者を含めると458人とお聞きした。定員を設けて、この子は来られる、この子は来られないということだけにはしたくないと思う。是非、時間延長とともに、より多くの子どもたちが過ごすことができる環境整備と人員の増員もお願いしたい。

(委員) 長野市街地にも、「SaSaLAND」のような場所ができないと、不登校数は減っていかないのではないかと。子どもの数が減っても、多様な学びができる学校の在り方を含め、少し広げる方向で考えていかないと対応できないと思う。

(司会) 意見として頂戴したいと思う。

②子どもの体験・学び応援モデル事業について
・島田こども未来部長から資料2に基づき説明

【意見交換】

(委員) 親御さんたちが大変忙しく働かなければいけない時代になってきて、子ども同士も集まって遊ぶ場所がなくなっている。できるだけ小さい、若いうちからこのような体験ができればと思う。

(こども未来部長) 将来を考える小学生や中学生に対して、体験や学びを提供したいという思いもあり、モデル事業を実施している。もっと小さな子ども対象にできないかといった意見もいただいているので、今後考えていきたい。

(委員) この「みらいハッ！ケン」プロジェクトには、すごく期待をしている。子どもたちの体験格差みたいなのところもあるのではないかと感じている。多様な体験ができる機会を広げていただけることは、ものすごく良いと思っている。

そのためにも、教育委員会と連携し、子どもたちが様々な活動を通して、小学校高学年、中学生となってきた時には自分たちで体験するもの、体験したいものをきちんと考えて、ポイント数をマネジメントして、どう使って、どんな体験をするかを考えることも学びだと思う。同時に、これは私の理想として、交通費にポイントを使えないか。路線バスなどの交通費にポイントを使うことができれば、親が忙しくて連れていけないでも、路線バスに乗ってみんなで行こう、そんなこともできるようになると、さらに(体験の機会が)広がると思う。一部の声ではあるが、子どもがこういう活動をしたいと言っても連れていけないとの声が聞こえてきたので、(交通費にポイントを使うことが)できたらいいなと思う。

また、資料2スライド9で体験の感想を挙げているが、是非、子どもたちに届くようにどんな体験があるのか、また体験してきた子の思いが伝われば、自分もやってみたくて意欲が変わってくると思う。次年度以降は子どもたちへの情報発信もお願いしたい。

(こども未来部長) 「みらいハッ！ケン」プロジェクトのチラシを12月末に配布し

たが、自分で何をやりたいのか書いていただくような工夫をしたチラシを作成した。保護者が考えることも大事なことだが、子ども自身が自分で何かをやりたいという、インセンティブが働く仕掛けも必要。周知をしっかりとやっていきたい。また、利用者の声が子どもに届くようなメッセージを打てればと思っている。

(司会) 子どもの声という話が出ましたが、スポーツ団体、芸術団体など、様々な事業者が今回新たに考えるきっかけになったのではないかと思うが、事業者の反応はどうか。

(こども未来部長) 事業者からも、やって良かったとの感想をいただいている。一方で、利用者の声が事業者に届きづらいということもあったので、本格実施するに当たっては利用者の声がフィードバックされ、事業者にも伝わるような工夫もしていきたい。

(市長) 今回のプログラムの中で、送迎付きのプログラムはあったのか。

(こども政策課長) 資料2スライド6をご覧ください。体験プログラムの◇体験型の一番上のスキー教室については、一部送迎付きがあった。送迎付きのプログラムは、現在のところ少ないが、ある。

(委員) 「みらいハッ!ケン」プロジェクトが、ますます充実すればいいなと思っている。要望になるが、中学生ぐらいになるとこういったプログラムがあると言った時に、行ってやってみようとして自分で決めることができるが、小学生はなかなか決めることが難しい。そこで、多様な体験ができるプログラムあればと思う。

(副市長) 市長が力を入れている事業で、3か月の事業で6割の登録率がいいのではないかと思う。令和6年度から本格実施していく中で、登録率がもっと上がっていくと思っているが、4割の未登録について、(理由として)考えられることはあるか。

(こども未来部長) 調査時点での未登録者約1万5千人に対してアンケート調査を行い、回答があったのは87人でした。回答が少ない中でも、意見としては「利用したいプログラムがなかった」、「利用期間が短い」といった声はいただいている。意見を踏まえて、本格実施をしていく中で課題を解決していきたい。

(勝野教育次長) しっかり把握できていないが、登録できた家庭、登録できない家庭

について、教育の視点でも影響があると思うので、何らかの方法で把握できるように努めていきたい。

(司会) 新年度も事業継続という発言があったため、教育委員会と連携、協力しながら進めていただければと思う。

荻原市長 (まとめ)

- このような機会は貴重で教育委員やここにお集まりの皆さんと一緒に思いを共有したいと思っている。
- 「SaSaLAND」については、教育委員会のこれからの取組に期待をしている。市民の期待感もかなりあると思っているので、是非成功させたい。
- 「SaSaLAND」での取組が1つのモデルケースとなって、学校に展開されていけば風土も変わっていくと思う。
- 私としては、皆さんと一致協力して、未来ある子どもたちを守り、支えていく思いで臨んでいきたい。
- 保護者自身も子どもにもっと寄り添いたい、関わりたい、学校と一緒にこの地域の子どもたちの教育環境を整えたいという思いも高まってきたらいいなと期待感も含めて、ぜひ皆さんと一緒に「SaSaLAND」をいいものにしていきたい。